

第6回 稲戸井調節池整備・活用検討懇談会 議事要旨

日 時：平成21年6月4日（木）14:00～15:35

場 所：ゆうあいプラザ 2階（201）

○掘削の基本的な考え方

1) 掘削の考え方

- ・様々な試験（掘り方、斜面等）により、何をすればどのようになるのか具体的にわかる。
- ・掘削による環境への影響はマイナス面もあるが、やり方次第ではプラスの要素を引き出せる。

2) 利活用への配慮

- ・直線化を避ける、護岸等を整備しない等、植生や魚類の生息環境に配慮することが必要。
- ・下水排水を浄化し、子供が遊べる水辺空間があると、皆で利用できる。
- ・利活用時の安全責任については、自治体もある程度、努力していただかなければならない。

3) その他

- ・水質環境の悪化に対しては、早期の発見・手当の努力をしていただきたい。

○試験掘削の概要

1) 環境モニタリング

- ・とにかく、時間をかけないとわからないので、じっくりと対応していただきたい。
- ・環境保全だけでなく、新しい生物の生息も見据えて変化のある状況を目指す方が良いのではないか。

2) 植生回復実験

- ・播き出し結果の基礎的なデータを提供してもらえれば、コメントがしやすくなる。
- ・（播き出しがない区画は）1年程度で植生が回復している。播き出しの効果はあるのか。
→ 今回深く掘削するので、表土播き出しの効果を検証する。

3) サシバ調査

- ・調節池は猛禽類が非常に多く、冬は中国・ロシアの方から希少種・危惧種が来るため、希少生物の保全の場になっている。繁殖期の他、冬季調査により全体を把握する必要がある。

4) 大学などとの共同について

- ・大学機関等が稲戸井をスタディーサイトとして長期間で見てくれれば、非常に有益である。そのような仕掛けも今後考えていく必要がある。

5) その他

- ・環境が良くないと生物は多様にならないし、興味を持たれることも難しくなる。
- ・懇談会以外にも、事務所と連絡できるように窓口を決めてほしい。
→ 地域連携課が窓口として対応する。

○今後のスケジュール

- ・次回は、ある程度のものが見えてくると思うので、現場を見せていただくとありがたい。

○その他

- ・車の入れるところでは、特にゴミの不法投棄が問題である。
- ・箱物は、維持費用がかかる。お金がかからず、かつメンテナンスフリーで、川のことが勉強できる形が、一番良い。この知恵をどのように出すかが問題である。